

平成20年度
東オホーツクシーニックバイウェイ
ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

| | | |
|-------------------------|-----------|-----------------|
| ルート名称: 東オホーツクシーニックハイウェイ | 報告者: 奥山英明 | 報告年月: 2009/3/24 |
|-------------------------|-----------|-----------------|

| | ルート(エリア)運営活動計画方針 | ルート(エリア)運営活動計画活動内容 | No | 活動名 | 主催 | 活動実施日 | 参加人数 | 活動状況 資料番号 | 総括 | |
|--|---------------------------------------|------------------------------------|--------------|-----------------------------|----------------------|-------------------------------|---------------------------------|--------------|---|--|
| オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる (美しい沿道の保全・啓蒙) | 沿道の一斉清掃活動の実施 | 小清水原生花園、以久科原生花園の保全 (ネナシカズラの除去等) | 1 | 小清水原生花園のゴミ拾い事業 | 小清水町観光協会 | 平成20年4月12日 | 50名 | | 沿道清掃及び植栽活動が各エリアで活発に行われ、各方針の目標の達成を十分満たしているものと考えられる。今後は、類似した活動も多く見受けられることから、これらの活動を連携させることを念頭においてルート全体活動などに反映させたい。 | |
| | | 沿道の植栽活動の実施 | 沿道の一斉清掃活動の実施 | 2 | 平成20年度網走湖クリーン作戦 | 網走市観光協会 | 平成20年4月26日 | 230名 | | |
| | | | 沿道の植栽活動の実施 | 3 | 美しい景観保全のための清掃事業 | 清里町商工会 | 平成20年5月17日 | 170名 | | |
| | 沿道の植栽活動の実施 | 沿道の植栽活動の実施 | 沿道の一斉清掃活動の実施 | 4 | 網走駅・花の駅長さん 花壇造成活動 | 北海道東藻琴高等学校 | 平成20年6月下旬 ～ 平成20年8月下旬 | 17名 | | |
| | | | 沿道の植栽活動の実施 | ★5 | 芝桜花街道にプランターを飾ろう! | 大空町東藻琴観光協会 | 平成20年5月9日 | 50名 | | |
| | | | 沿道の植栽活動の実施 | 6 | きよさと花みどりフェスタ2008 | 清里町花と緑と交流のまちづくり委員会 | 平成20年6月1日 ～ 平成20年9月30日 | 5000名 | | |
| | | | 沿道の植栽活動の実施 | ★7 | 浜っこ広場集落緑化施設の整備事業 | NPO法人 グラウンドワークこしみず | 平成20年5月12、15、16日、6月12、13日、8月26日 | 12名 | | |
| | | | 沿道の植栽活動の実施 | 8 | ウトロ沿道に花を植えよう | しれとこウトロ・フォーラム21 | 平成20年6月21日、22日 | 130名 | | |
| | | | 沿道の植栽活動の実施 | 9 | ガードレールの雪かきボランティア | しれとこウトロ・フォーラム21 | 平成21年2月19日 平成21年3月6日 | 80名 | | |
| 景観づくり | 鮮やかな四季の色彩を見せる (花の沿道の創出・連携や植物群生の保全) | 網走湖周辺の水芭蕉の保全活動 | - | - | - | - | - | | 事業予算等が少なかったことから、各方針別の活動がほとんど行われなかった。今後は、活動方針の見直しを図るとともに資金をあまり必要とせず実現できる取り組みを行っていききたい。 | |
| | | 花を見る木道づくりの推進 | 10 | 桜の名所づくりと既存の植栽地の維持管理 | 桜の名所を創る会 | 平成20年5月11日 | 158名 | | | |
| | | 東オホーツク花カレンダーの作成 | - | - | - | - | - | - | | |
| | | 東オホーツク花シンポジウムの実施 | - | - | - | - | - | - | | |
| | | 沿道の植栽活動の実施 | 11 | 女満別湖畔清掃 | NPO法人 めまんべつ観光協会 | 平成20年4月25日 | 150名 | | | |
| | | 沿道の植栽活動の実施 | ★12 | 自然環境問題に関する勉強会 | 東オホーツクシーニックハイウェイ連携会議 | 平成21年2月13日 | 80名 | | | |
| ビューポイントを再発見・創出する | ビューポイントを再発見・創出する | 沿道の植栽活動の実施 | ★13 | 小清水原生花園、湊沸湖の環境整備を意識した自然体験教室 | イッショ移住オホーツク | 平成20年7月28日、29日 | 35名 | | 各方針別の活動内容について、今年度はあまり活動が行われていない状況であるが、昨年度以前から、景観探しバスツアーの実施や広域のマップづくりなどが行われ、ビューポイントなどの情報が蓄積されてきている。今後は、蓄積された情報を各方針別の内容に活かしていくことが課題になるものと考えられる。 | |
| | | 沿道の植栽活動の実施 | - | - | - | - | - | | | |
| | | 沿道の植栽活動の実施 | 14 | オホーツクフォトグラファー・メンバーズ写真展 | オホーツクフォトグラファー・メンバーズ | 平成20年7月29日 ～ 平成20年9月30日 | 来場者数百名 | | | |
| | | 沿道の植栽活動の実施 | - | - | - | - | - | - | | |
| | | 沿道の植栽活動の実施 | ★15 | 廃屋のある景観を観光資源とし、地域活性化に活用する研究 | イッショ移住オホーツク | 平成21年1月5日 ～ 平成21年2月8日 | 57名 | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------|-------------------------|----------------------------|---------------------------|---|--------------------------|---|----------------|-------|--|
| 地域づくり | 農・水・林・地域文化資源の発掘と連携 | 地域資源の洗い出しマップの作成とバス発掘ツアーの実施 | ★16 | チャソコプロジェクト Shinra・北大協働による コミュニティーアーキオロ ジー 実践イベントの開催 | 知床ナチュラリスト協会 | 平成20年9月13日 ～ 平成20年9月21日 | 600名以上 | | 地域特産物の販売などが盛んに行われ、東オ ホーツク特有の資源を活かす活動が定着しつ つある状況となった。特に参加者なども多いこ とから継続した活動になることを期待する。 |
| | | 地域特産物の販売やPR活動 | 17 | ウトロ道の駅となりで「ウト ロマーケット」 | うとろナチュラルクラブ | 平成20年9月15日 | 約400名 | | |
| | | | ★18 | ポケットマーケットの開催 | しれとこウトロ・フォーラム 21 | 平成20年10月12日 | 100名以上 | | |
| | | | 19 | シーニックデッキへGO！GO！ 秋の収穫祭 | 東オホーツクシーニックハイウェイ 連携会議 | 平成20年9月6日 | 500名 | H - 3 | |
| | | 先住民族フォーラムの実施 | - | - | - | - | - | | |
| | 植林事業等の実施 | - | - | - | - | - | | | |
| | 楽しみの創出(東オホーツク文化・ライフの追求) | 温泉情報マップの作成 | - | - | - | - | - | | 各方針別の内容が特定な内容が多く、活動が 行えない状況になった。今後は、活動方針の 見直しを図るとともに資金をあまり必要とせず に実現できる取り組みを行っていきたい。 |
| | | 文化施設等との連携による文化発信 | - | - | - | - | - | | |
| | | フットパスづくり | 20 | 美幌峠を活かした滞在型 の観光開発を担う実証実 験 | 東オホーツク美幌歩こう会 | 平成20年7月13日 | 15名 | | |
| | | オホーツクパーボンの研究 | - | - | - | - | - | | |
| | | 外国人交流の実施と誘致 | - | - | - | - | - | | |
| | | オホーツクのオリジナル食メニューの研究 | - | - | - | - | - | | |
| | 地域連携による地域情報の発信 | 活動団体向けニュースペーパーの発行 | - | - | - | - | - | | ホームページなどで紹介できるような取組みが 多く、各エリアの地域情報や観光情報などを発 信することができた。特に方針の内容とは異 なっているが、フォーラム開催による活動情報 などの発信も行われていることから一定の成 果が得られたものと考えられる。 |
| | | HPの創出と各町観光情報とのリンク | ★21 | 東シーニックハイウェイの 新たな情報発信コンテンツ制作 に関する調査・研究 | NPO法人 産業クラスター 東オホーツク | 平成20年8月18日 ～ 平成21年2月27日 | アクセス数 2786件 | | |
| | | | 22 | 地域SNS活用セミナーの開 催 | NPO法人 オホーツク21世紀を 考える会 | 平成20年9月16日 | 103名 | | |
| | | | 23 | 世界自然遺産・知床のイン ターネットラジオ局 | Radio Kisar | 随時更新 | | | |
| | | シーニックデッキの創出 | ★24 | 東オホーツクシーニックハイウェイ フォーラム | 東オホーツクシーニックハイウェイ 連携会議 | 平成21年2月28日 | 50名 | H - 1 | |
| | | | 25 | 大空町東藻琴商工会 商工 夏祭りの開催 | 大空町東藻琴商工会 | 平成20年8月7日 ～ 平成20年8月14日 | 400名 | | |
| | | | 26 | 2009年度 版画カレンダー の作成会 | まちづくりネットワークプロ ジェクトN5 | 平成20年10月4、11、25 日、 平成20年11月15、22日 | 6名 | | |
| ★27 | | | 移住定住事業 | NPO法人 きよさと観光協 会 | 平成20年4月～ 平成21年2月 | | | | |
| 28 | | | のんで踊ってやったるDAY 盆踊りカーニバル | 小清水町商工会 | 平成20年8月2日 | 300名 | | | |
| ★29 | | ポケットパークの創出及び 運営 | しれとこウトロ・フォーラム21 | 平成20年8～10月 | 100名(イベント) | H - 2 | | | |

| | | | | | | | | | | |
|------|---------------------|-----------------------------|--------------|--------------------------------------|------------------------------|--------------|------|-------|---|---|
| 観光振興 | 風を感じさせるマグネットポイントの創出 | 流水茶屋、湖畔茶屋、山の茶屋の創出 | 19 | シーニックデッキへGO！GO！秋の収穫祭 | 東オホーツクシーニックハイウェイ連携会議 | 平成20年9月6日 | 500名 | H - 3 | シーニックデッキの利活用を中心とした活動が行われた。これらの活動を継続することにより、新たな観光拠点の創出などが期待できる。 | |
| | | サケ・サクラマスを見れる拠点の創出や清掃 | - | - | - | - | - | - | | |
| | 各地毎の滞在メニューの創出・連携 | 東オホーツクウォーキングルートの選定とフットパスづくり | - | - | - | - | - | - | | 東オホーツクの自然を活かした活動が多く行われた。特に体験型のメニューとなりえる活動が多いことから今後の継続した活動に期待する。 |
| | | ホーストレッキングルートの選定 | 30 | オホーツクホーストレッキングin網走2008 | オホーツクホーストレッキング研究会 | 平成20年7月5日、6日 | 40名 | | | |
| | | エコツアーの連携や自然探索ツアーの実施 | 31 | 「神の子池」かんじきウォーキング | 清里町ウインターフェスティバル実行委員会 | 平成21年2月15日 | 60名 | | | |
| | | | 32 | 斜里岳山麓・紅葉の森と遊ぼう | NPO法人きよさと観光協会、清里町商工会 | 平成20年9月28日 | 60名 | | | |
| | | | 33 | 美幌峠まつり 祈願祭 | 美幌観光物産協会 | 平成20年5月25日 | 300名 | | | |
| | 34 | | 知床ファンタジア2009 | 知床ファンタジア実行委員会 知床斜里町観光協会 斜里町商工会 | 平成21年2月5日 ～ 平成21年3月21日 | | | | | |
| | 東オホーツク型観光の研究 | 馬やバルーン景観の研究 | 30 | オホーツクホーストレッキングin網走2008 | オホーツクホーストレッキング研究会 | 平成20年7月5日、6日 | 40名 | | 事業予算等が少なかったことから、各方針別の活動がほとんど行われなかった。今後は、活動方針の見直しを図るとともに資金をあまり必要とせずに実現できる取り組みを行っていきたい。 | |
| | | 東オホーツクトラベルの研究 | - | - | - | - | - | | | |
| | | 東オホーツク観光塾の創出 | - | - | - | - | - | | | |
| | | 東オホーツクエリアガイドの育成と仕組みづくり | - | - | - | - | - | | | |

※表中“★”はH20新規活動

東オホーツクシーニックバイウェイ

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツクシーニックバイウェイフォーラム』

【内 容】 地域に向けた東オホーツクルートの取組みの紹介や活動団体間の情報の共有を目的として、東オホーツクシーニックバイウェイフォーラムを開催した。登録活動団体の活動を報告することで、地域に東オホーツクルートの周知を図り、活動意識の向上と登録活動団体間の連帯感を図ることができた。

【日 時】 平成21年2月28日(土) 15:00~17:30

【場 所】 小清水町多目的集会施設(愛ホール)

【主 催】 東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

【協 力】 北海道開発局網走開発建設部(後援)、東オホーツク行政連絡会議(後援)

【参加人数】 15名

【来場者数】 50名



▲フォーラムの参加者



▲特別公演の様子



▲口頭発表の様子



▲活動報告パネルを閲覧する参加者

東オホーツクシーニックバイウェイ

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『ポケットパークの創出及び運営』

【内 容】斜里町ウトロ中心街の交差点(神社山交差点)の余剰スペースを多目的に利用するためにデッキの設置、掲示板によるリアルタイム情報の発信やこれらのスペースを利用したイベントの開催などを行い、地元住民と来訪者(観光客)が共有できるコミュニケーションの場となる「ポケットパーク」をつくり、その運営・管理を行った結果、マーケットのようなイベントを開催することにより、活用意識の向上、地域との繋がりを深めることができた。

【日 時】平成20年8月～10月末

【場 所】斜里町ウトロ 神社山交差点

【主 催】しれとこウトロ・フォーラム21

【協 力】東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議、うとろナチュラルクラブ、
知床ナチュラルリスト協会、斜里町ウトロ自治会、斜里町

【参加者数】30名

【来場者数】100名ポケットマーケット(イベント開催時)



▲ポケットパーク



▲ポケットパーク



▲ポケットマーケットの様子(イベント)

東オホーツクシーニックバイウェイ

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツクシーニックバイウェイシーニックデッキの利活用』

【内 容】 東オホーツクシーニックバイウェイルート内に点在するシーニックデッキの利活用を目的として、清里町と小清水町の野菜直売所にて直売イベントを開催した。シーニックデッキが設置されてある清里町上斜里地区「コスモスロード駐車帯」にある清里田園工房ポプラ野菜直売所と小清水「じゃがいも街道」にある野菜直売所でイベントを行い、旅行者、地域の方々との交流の拡大を行った。その結果、販売などは盛況であったが、隣接するシーニックデッキを利用する方は少ないなどイベントを活用したデッキの周知を図ることができなかった。

【日 時】 平成20年9月6日(土) 10:00~15:00

【場 所】 上斜里フラワーロード駐車帯、じゃがいも街道(シーニックデッキ設置箇所)

【主 催】 東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

【共 催】 NPO法人きよさと観光協会、清里町商工会、小清水町観光協会

【協 賛】 上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会

【参加者】 30名

【来場者数】 延べ500名



▲仮設店舗による野菜直売所(清里)



▲シーニックデッキ利用状況(清里)



▲野菜直売所販売状況(小清水)

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

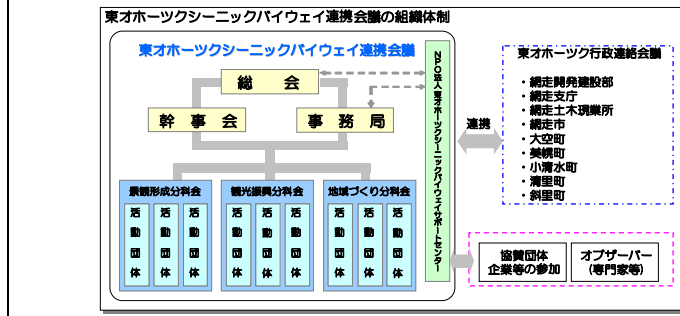
| | | |
|----------------------------|-----------|-----------------|
| ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート | 報告者: 奥山英明 | 報告年月: 2009/3/24 |
|----------------------------|-----------|-----------------|

活動団体

■参加活動団体(42団体)

網走湖・水と緑の会、網走市観光協会、オホーツク21世紀を考える会、オホーツクホストレッキング研究会、特定非営利活動法人グリーンシーズ(緑の環境を保全する部会)、特定非営利活動法人産業クラスター東オホーツク、東京農業大学生物産業学部、有限会社ヒサダ観光、北海道立オホーツク公園、特定非営利活動法人夢の樹オホーツク、大空町東藻琴観光協会、大空町東藻琴商工会、大空町女満別商工会、オホーツクフォトグラファーマンベーズ、北海道東藻琴高等学校、まちづくりネットワーク・プロジェクトN5、特定非営利活動法人めまんべつ観光協会、藻琴川を美しくする会、上斜里フラワーロード推進協議会、特定非営利活動法人きよさと観光協会、清里町ウォーキング同好会、清里町商工会、清里町花と緑と交流のまちづくり委員会、東オホーツクガイド協会、特定非営利活動法人グラウンドワークこしみず、財団法人小清水自然と語る会、小清水町観光協会、小清水町商工会、小清水町観光ボランティアガイド協議会、うとろナチュラルクラブ、斜里町商工会、しれとこウトロ・フォーラム21、特定非営利活動法人知床斜里町観光協会、特定非営利活動法人知床ナチュラリスト協会、Radio Kisar、桜の名所を創る会、東オホーツク美幌あるこう会、美幌観光物産協会、美幌CBC(コミュニティービジネスクリエイター)、美幌商工会議所青年部、特定非営利活動法人イッショ移住オホーツク、中村工務店野外活動倶楽部 (平成20年6月19日現在)

ルート運営体制(活動団体)



| | 基本方針 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 |
|--|------------|-----------|----|-----------|----|----|----|------------|-----|-----|----|----------|----|--|
| | ルート運営代表者会議 | | | ● 6/19 | | | | | | | | | | 幹事・事務局会議がルート全体活動の企画から執行までの決定機関になっており、活動団体間の活動の理解が不十分な状況になっている。 |
| | 幹事会 | ● 4/24 | | ● 6/4 | | | | ● 10/21 | | | | ● 2/4 | | |
| | 分科会 | | | | | | | | | | | | | |
| | 実行委員会 | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|----------------------------|--------------|--------------|
| ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート | 報告者: 網走開発建設部 | 報告年月: 2009/3 |
|----------------------------|--------------|--------------|

| | 基本方針 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 |
|--|-----------|----|----|----|----|----|----|--------------------------------|-----|-----|----|----|----|----|
| | 行政連絡会議の実施 | ← | | | | | | 会議開催はせず、MLにて団体・行政双方の活動情報等を随時配信 | | | | | → | |

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

| ルート名称:東オホーツクシーニックバイウェイルート | | 報告者:網走開発建設部 | | 報告年月:2009/3 | | | | |
|--|---|------------------------|--|--|--|--|--|-----|
| ルート(エリア)運営活動計画方針 | 平成19年度の活動内容 | 活動実施日 | 実施機関 | 成果及び課題 | 総括 | 活動No | | |
| オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる (美しい沿道の保全・啓蒙) | メルヘンの丘ビューポイントパーキング清掃活動 | 4/30 | 網走開発建設部・大空町 | 「メルヘンの丘」を訪れる多くの観光客などの方々に「気持ち良くオホーツクの自然景観を楽しんでもらえるように、道の駅「メルヘンの丘めまべつ」及びメルヘンの丘ビューポイントパーキング周辺の道路について、本格的な観光シーズンに向けて地域住民とともに清掃活動を実施 | | 35 | | |
| | 道路付属物チェックシートによる道路付属物のチェック及び集約化・撤去 | 通年 | 網走開発建設部 | 管内全域において、道路付属物の必要性や景観への影響、集約・撤去の可能性をチェックシートでチェックし、すくに対応可能な箇所については、撤去・集約等による改善を実施した。 | | ★36 | | |
| | 広域景観づくり推進協議会の設立 | 3/26協議会設立 | 網走支庁・網走市・大空町・美幌町・津別町・小清水町・清里町・斜里町・網走開発建設部 | 東オホーツク地域の特徴的な景観を守り育てていくため、広域の連携・協働した取り組みを推進していくことを目的に、7市町で「東オホーツク広域景観づくり推進協議会」を設立し、行動計画の策定や、行政・民間事業者・活動団体・町内会・個人等の幅広い連携・協働した取り組みにより広域景観づくりを進めていくこととした。 | | ★37 | | |
| | 鮮明な四季の色彩を見せる (花の沿道の創出・連携や植物群生の保全) | 北浜法面原生花園化協議会 | 5/28協議会 7/10現地観察 11/14圃場開墾・種まき | 網走開発建設部・網走市 | 国道244号網走市北浜の法面等に自生する原生花園的な植物の種子を採集して育苗、植栽することで、世界自然遺産である知床半島やラムサール条約登録地である薄湯湖、また小清水原生花園、久利原生花園など、自然環境及び景観の優れた地域へのエントランスを創出し、市民や観光客に親しいある良好な景観を形成する。また、本活動へ参加することで環境意識の向上、地域振興への支援を図る。 今年度は、引き続き協議会の活動として、自然観察会、圃場の拡張・種まきを実施するとともに、新たに地元博物館の協力も得て地元小学校の総合学習と連携した観察会を行った。 | 地域の景観の価値を再認識し、活かす取組を行政側も積極的に実施してきている。一方で、連携が限定的なものにとどまっていることから、今後、シーニックのネットワークを活かした更なる連携を図り、効果的に推進していく必要がある。 | 38 | |
| | | ボランティアサポートプログラムによる花の植栽 | 6/22 | 網走開発建設部 | 知床の玄関口、ウしろの道路沿いに花を植え、美しい街並み景観の創出を図るため、地域の活動団体(しれとこウしろフォーラム21)と網走開発建設部とが協働して花植えを実施した。 | | 8 | |
| | | 地域と連携した除雪ボランティアの試行 | 2/19,3/6 | 網走開発建設部 | 知床特有の景観である流水のシーズンにおいて、地域観光支援と冬期ボランティアサポートプログラム可能性検討、駐車場周辺における安全対策を目的に、駐車場が設置されている3箇所において、地域住民、活動団体、地元建設会社、網走開発建設部等が協働し、歩道橋のボランティア除雪を実施した。 | | 9 | |
| | | ビューポイントを再発見・創出する | 知床における地域住民との協働による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向けた社会実験(仮設ビューポイントパーキング設置) | 2/3~23 | 国道334号路線連絡会議(網走開発建設部、斜里町外、知床地域)関係する19機関・団体 | 地域住民との連携による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向け、旧道敷地を活用した仮設ビューポイントパーキングを設置することで、安全に流水景観を楽しめる場を提供し、流水を見るための路上駐車や抑制する取り組みを実験的に実施した。 | | ★38 |
| | 感動の径ビューポイントパーキングの整備 | | 11/18完成 | 網走市 | 美しい田園風景や、薄湯湖、オホーツク海、知床連山を一望することができる「感動の径」の風景を安全に楽しめるよう、ビューポイントパーキング「知床連山が美しく見える丘 豊郷」を設置 | | ★39 | |
| | 農・水・林・地域文化資源の発掘と連携 楽しみの創出(東オホーツク文化・ライフの追求) | 地域連携による地域情報の発信 | Aコープ斜里駐車場で地域イベントと連携した駐車場混雑情報発信 | 8/15 | 網走開発建設部・斜里町 | 夏季の観光シーズンに混雑が目立つ知床五湖やオシシコシンの薄湯駐車場の混雑緩和を目的に、知床へのエントランスポイントである斜里町市街地(Aコープ斜里駐車場)において、地域のNPO団体主催のイベントと連携した情報提供を行った。 情報提供は、イベントの一角に設置したブースにおいて、網走開発建設部職員と東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議メンバー等が駐車場2箇所の混雑状況及び近隣のビューポイントの紹介を行った。また、同様の情報をチラシで沿道の道の駅においても実施し、道路利用者の行動変化を促し混雑の分散化を図った。 | | 40 |
| | | | 東オホーツクシーニックバイウェイフォーラム等団体活動への後援 | 2/28 他 | 東オホーツク行政連絡会議各機関 | 地域一般に向けた東オホーツクシーニックバイウェイの取り組みの紹介、活動団体間の情報共有、活動意識の向上、活動団体と関係機関との連携感を高めることを目的として開催された東オホーツクシーニックバイウェイフォーラムにおいて、網走開発建設部及び東オホーツク行政連絡会議名で後援した。その他、団体活動について関係する行政機関で後援し、PRや参加者募集の効果も上げた。 | メンバーリストを用いた活動団体・行政機関相互の活動情報、イベント情報等の情報交換が定着し、団体活動に行政機関の関係者(行政連絡会議担当以外も含む)の参加や後援等での行政機関の関わりが多く見られるようになった。 | 24 |
| 道路情報板を活用した「東オホーツクシーニックバイウェイ」表示、「カムイウツシヤトルバス乗換え」表示による地域情報発信 | | | 6月~10月 | 網走開発建設部 | 夏期観光シーズンに東オホーツクを訪れる観光客や地元の方に対し、シーニックバイウェイルートであることを知っていただくことを目的に、シーニックバイウェイルート沿線の道路情報板に「東オホーツクシーニックバイウェイ」の表示を実施。また、知床に向かうルート上では、シャトルバスへの乗り換え情報等も表示した。(交通規制等の実施日、悪天候時等はそれらの表示を優先) | | 41 | |
| 情報誌「SCENE」の配布 | | | 通年 | 東オホーツク行政連絡会議各機関 | 支援センターより発行される情報誌「SCENE」について、各役所、道の駅の他、観光関係施設等に配置し、観光客や地域住民にシーニックバイウェイ活動の周知・PRを行った。 | | 42 | |
| 知床における地域住民との協働による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向けた社会実験(地域住民からの冬期道路ヒヤリハット情報収集・発信) | | | 2/3~23 | 国道334号路線連絡会議(網走開発建設部、斜里町外、知床地域)関係する19機関・団体で構成) | 地域住民との連携による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向け、地域住民からヒヤリハット情報を収集し、道の駅、宿泊施設、HPで道路利用者へ情報発信することにより、冬期に知床を訪れる観光客に危険箇所の注意喚起を促し安全に観光してもらう取り組みを実験的に実施した。 | | ★38 | |

| | | | | | | | |
|------|---------------------|--|---------|--|--|---|-----|
| 観光振興 | 風を感じさせるマグネットポイントの創出 | 知床における地域住民との協働による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向けた社会実験 (仮設ビューポイントパーキング設置) | 2/3~23 | 国道334号路線連絡会議(網走開発建設部、斜里町外、知床地域に 関係する19機関・団体 | 地域住民との連携による安全性と利用満足度の高い冬期道路交通の実現に向け、旧道敷地を活用した仮設ビューポイントパーキングを設置することで、安全に流水景観を楽しめる場を提供し、流水を見るための路上駐車を抑制する取り組みを実験的に実施した。 | ビューポイントパーキングの効果が各機関に認識され、新たな取り組みがなされた。また、知床観光圏の取組が開始され、広域連携した観光施策の仕組みができた。今後、他のエリアを含め更なる連携を図り、効果的な観光振興を推進していく必要がある。 | ★38 |
| | | 感動の径ビューポイントパーキングの整備 | 11/18完成 | 網走市 | 美しい田園風景や、霧湯湖、オホーツク海、知床連山を一望することができる「感動の径」の風景を安全に楽しめるよう、ビューポイントパーキング「知床連山が美しく見える丘 豊畑」を設置 | | ★39 |
| | 各地毎の滞在メニューの創出・連携 | 知床観光圏整備計画の策定 | 2月計画提出 | 斜里町、清里町、羅臼町、標津町 | 知床を行政区境界や支庁界を超えた一つの観光圏としてとらえ、相互連携を強め、観光地の魅力増進と観光需要の増大を図るため、観光圏整備法に基づく協議会を設立。知床観光圏整備計画及び実施計画を策定した。平成21年度以降、計画に基づき4町及び関係団体が連携し一体的な取り組みを推進する。 | | ★43 |
| | 東オホーツク型観光の研究 | | | | | | |

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

| | | |
|----------------------------|-----------|-----------------|
| ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート | 報告者: 奥山英明 | 報告年月: 2009/3/24 |
|----------------------------|-----------|-----------------|

| 平成19年度活動報告への助言 | 平成20年度 状況報告 | 備考 |
|---|---|----|
| <p>・シーニックバイウェイ北海道の取り組み定着を踏まえ、持続的推進や一層のブランド形成を図るため、地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。</p> | <p>当東オホーツクの活動団体は、地域別、活動団体別に見ると、多少取り組み状況に差が出てきましたが、全般的に安定した活動状況にあります。地域でのシーニックバイウェイの認知度は、広域マップの作成や各種事業のマスコミ報道など、ブランドとして高く認識されているものと考えます。また、活動団体を中心とした研究会、フォーラムを開催し、新たな人材育成にも取り組んでいます。次年度はマンネリ化を防ぎ、更なる活動を実施すべく事業計画を策定いたします。</p> | |

| | | |
|----------------------------|--------------|--------------|
| ルート名称: 東オホーツクシーニックバイウェイルート | 報告者: 網走開発建設部 | 報告年月: 2009/3 |
|----------------------------|--------------|--------------|

| 平成19年度活動報告への助言 | 平成20年度 状況報告 | 備考 |
|---|---|----|
| <p>・地域へのルート活動の更なる浸透や、人材育成の取組の充実を期待する。</p> | <p>「かわら版」、メーリングリストを用いた活動団体・行政機関相互の活動情報、イベント情報等の情報交換が定着し、団体活動に行政機関の関係者(行政連絡会議担当以外も含む)の参加や後援等での行政機関の関わりが多く見られるようになった。 行政主体の取組みとしても、シーニックバイウェイの主旨やアイデアを実現する取組みが始動してきており、各行政機関職員の意識の浸透は進んできていると考えられる。今後、更に行政とシーニック団体、行政機関相互の連携促進を図りつつ効果的な取組みを推進していく必要がある。</p> | |